



カメラ、マイク、スピーカーの一台三役 部屋の隅にいる人もスムーズに会話ができ、議論が深まる オールインワン・ビデオバー『PanaCast 50』

リックソフト株式会社は『Atlassian(アトラシアン)』社製ソフトウェアの販売、導入支援サービスをはじめとしたツールソリューション事業を展開している企業だ。コロナ禍以前からWEB会議を活用していたという同社は、WEB会議環境の改善にも積極的で、この夏には全ての会議室をリニューアルしたという。その新しい会議室に導入されたのが、カメラ、マイク、スピーカーが一体となったビデオバー『Jabra PanaCast 50』だ。

会議室の配線を1本にまとめるには 一台三役のビデオバーが最適だった

同社でIT担当を務める佐藤さんは『PanaCast 50』導入の経緯についてこう話す。「ちょうどWEB会議室を新しくするタイミングで『PanaCast 50』を知りました。余計な機材や配線のないすっきりした部屋にしたいと思っていたので、すぐに興味を持ちました。機材が多いとセットアップに手間がかかり、配線が雑然として見た目も美しくありません。カメラ、マイク、スピーカーが一つに集約されたオールインワン型の『PanaCast 50』なら、ドッキングステーションと組み合わせることで配線が1本で済みます。個人的にはそこが大きな魅力でした」。今では同社のほぼ全ての会議室に『PanaCast 50』が設置済みだという。壁に埋めこむように取り付けただけで、広々とした印象のスタイリッシュな内装になっている。

また同社では、Bluetooth接続式の専用リモコンも一緒に導入している。佐藤さんに、その魅力を尋ねた。

「リモコンは、配線を増やすことなく様々な機能が使えるという点に惹かれて導入しました。実際、Bluetoothの接続性も良く、遠くからでもきちんと操作できます。他社製のビデオバーのリモコンは少し離れるとほとんど繋がりませんでした。このリモコンならビジネスの現場でも実用できます！」。

RS Ricksoft

Company

Customer : リックソフト株式会社

Website : <https://www.ricksoft.jp>

Country : 日本

Profile

2005年1月設立。価値あるツールを世界中の多くの人が使えるようにすることを目指し、ツールソリューション事業を展開し続けている。2009年に日本で『Atlassian(アトラシアン)』社製のソフトウェア開発用ツール群の販売及び導入支援サービスの提供を開始し、国内では2社しかないアトラシアン社提携企業の『プラチナエキスパート』を獲得。2019年に東証マザーズ上場を果たす。

Jabra Solution

Jabra PanaCast 50

■商品番号 [ブラック] 8200-232

[グレイ] 8201-232

■標準価格 ¥159,500(税抜)

Jabra Speak 750

■商品番号 7700-309(MS)/7700-409(UC)

■標準価格 ¥48,400(税抜)

■想定使用人数 1~6名





部屋の隅にいる人の声も拾える、姿も映る 会話がスムーズになり、議論が深まる

『PanaCast 50』の性能の中でも、特に社員に好評なのが「マイクの集音性」だと佐藤さんは話す。

「以前使っていた他社製のビデオバーは、10人規模の広さの会議室だと部屋の隅にいる人の声を拾ってくれませんでした。ですから、発言するたびに席を立ててマイクに近づいたり、最終的には別途でスピーカーフォンを外付けすることで対応していました。手間も配線も減らせず、ビデオバーを導入したメリットは感じられませんでした。『PanaCast 50』なら部屋の隅にいる人の声も綺麗に拾ってくれる。マスク越しでも声がこもりませんし、社員からも『よく声を拾ってくれる』と好評です！マイクやスピーカーの音質が良くなったことで、言葉のキャッチボールがしやすくなり、分からないことも質問しやすくなりました。以前よりも議論がより深まるようになったと感じています！」。

また『PanaCast 50』のもう一つの特徴であるカメラについても、佐藤さんはこう評価する。

「他社製品と比べても画質が良く、全員の姿を綺麗に映せます！画角も広いので部屋が広く見えるという利点もあります」。

部屋にいる全員の姿を見切れることなく映せるのは、180°の視野角を持つ『PanaCast 50』ならではの強みだと言えるだろう。



カメラを使わない社内ミーティングなど デスクでの打合せには『Jabra Speak』

一方で同社では『PanaCast 50』の他に、スピーカーフォン『Jabra Speak』も導入している。

「『Speak』は自席からWEB会議に参加する際に利用しています。社内ミーティングなどは資料共有がメインでカメラを使うことが少ないので、自席から『Speak』で参加することが多いです。PC内蔵スピーカーと比べて格段に音質が良いので、社内でメンバーと一緒に映像を見る時にスピーカー代わりに使用することも多いです」。そう話すのは、もう1人の経営管理部である長尾さんだ。

長尾さんは『Speak』の接続性能やポータブル性能についても高く評価する。「USBだけでなくBluetoothでも接続ができるのが便利。その時々で最適な接続形態を選ぶことができます。付属のポーチに入れて気軽に持ち運べるのもいいですね」。

最後に、長尾さんに『PanaCast 50』と『Speak』の使い分け方について尋ねた。「クライアントへのプレゼンなど、顔を見せて話したい重要な会議には『PanaCast50』。カメラを使わない社内でのちょっとした打合せには『Speak』という使い方が多い印象です」。

会議室でもデスクでも同社のコミュニケーションを支えているJabra。これからのビジネスにおける新しいコミュニケーションインフラとして、多くの企業に普及していきそうだ。

